

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【平成 22 年 4 月】

■調査概要

- 調査期間：平成22年5月1日～5月21日
- 調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送によるアンケート調査
- 回収状況：建設業18企業、製造業24企業、卸売業17企業、小売業26企業、
飲食業18企業、サービス業（運輸、不動産仲介業を含む）38企業
合計企業141企業
- 調査項目：4月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価状況
向こう3ヶ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI (Diffusion Index) 値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI、水準DIともにマイナス幅が拡大

1. 業況判断

○全産業合計の業況DI(前年同月比ベース)は、前月(▲22.5)よりマイナス幅が0.9ポイント拡大して▲23.4となった。建設業、製造業、小売業、飲食業でマイナス幅が拡大した。逆にサービス業でマイナス幅が縮小した。卸売業ではプラス幅が拡大した。

○全産業合計の水準DIは、前月(▲31.7)よりマイナス幅が6.6ポイント拡大して▲38.3となった。建設業、製造業、飲食業、サービス業でマイナス幅が拡大した。逆に卸売業、小売業でマイナス幅が縮小した。

業況判断DI

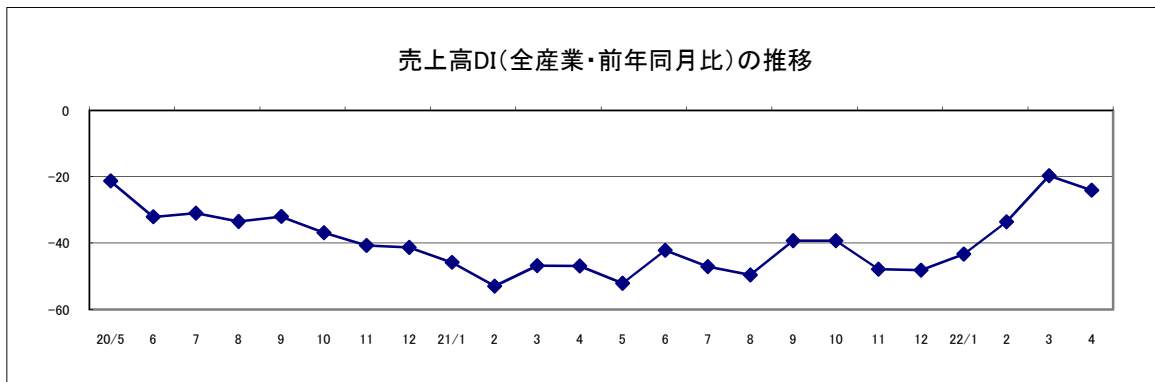
	業況(前年同月比)				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	12.8 (11.3)	51.1 (54.9)	36.2 (33.8)	▲23.4 (▲22.5)	5.7 (6.3)	50.4 (55.6)	44.0 (38.0)	▲38.3 (▲31.7)
建設業	0.0 (10.5)	50.0 (52.6)	50.0 (36.8)	▲50.0 (▲26.3)	0.0 (5.3)	44.4 (63.2)	55.6 (31.6)	▲55.6 (▲26.3)
製造業	16.7 (17.4)	41.7 (43.5)	41.7 (39.1)	▲25.0 (▲21.7)	4.2 (13.0)	45.8 (52.2)	50.0 (34.8)	▲45.8 (▲21.8)
卸売業	35.3 (35.3)	47.1 (29.4)	17.6 (35.3)	17.7 0.0	11.8 (5.9)	64.7 (52.9)	23.5 (41.2)	▲11.7 (▲35.3)
小売業	19.2 (7.7)	50.0 (73.1)	30.8 (19.2)	▲11.6 (▲11.5)	15.4 (7.7)	57.7 (57.7)	26.9 (34.6)	▲11.5 (▲26.9)
飲食業	0.0 (0.0)	55.6 (64.7)	44.4 (35.3)	▲44.4 (▲35.3)	0.0 (0.0)	50.0 (52.9)	50.0 (47.1)	▲50.0 (▲47.1)
サービス業	7.9 (5.0)	57.9 (57.5)	34.2 (37.5)	▲26.3 (▲32.5)	2.6 (5.0)	44.7 (55.0)	52.6 (40.0)	▲50.0 (▲35.0)

()内は前月データ

2. 売上高DI(前年同月比)

○全産業合計の売上高DIは、前月(▲19.7)よりマイナス幅が4.4ポイント拡大し▲24.1となった。

○業種別に見ると、建設業、製造業、飲食業、サービス業でマイナス幅が拡大した。卸売



【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

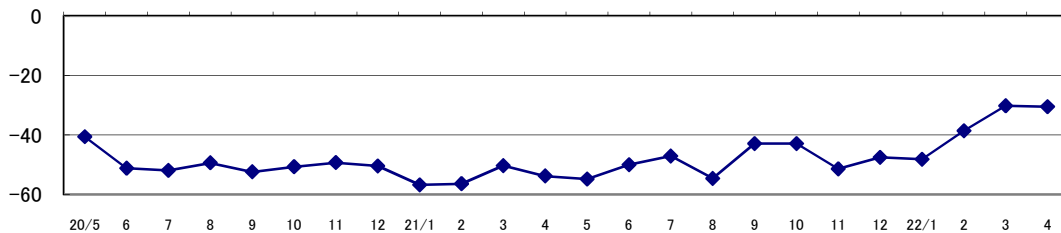
	21年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年1月	2月	3月	4月
全体	▲52.1	▲42.2	▲47.1	▲49.6	▲39.3	▲41.2	▲47.9	▲48.2	▲43.3	▲33.6	▲19.7	▲24.1
建設業	▲29.4	▲27.8	▲26.3	▲46.7	▲40.0	▲17.7	▲16.7	▲33.3	▲52.6	▲37.5	▲26.3	▲50.0
製造業	▲70.8	▲58.3	▲55.0	▲61.9	▲36.3	▲54.6	▲45.5	▲54.1	▲50.0	▲39.1	▲13.1	▲20.9
卸売業	▲70.0	▲64.7	▲61.1	▲52.6	▲75.0	▲58.8	▲63.2	▲50.0	▲5.9	▲6.2	0.0	17.7
小売業	▲57.7	▲19.3	▲34.6	▲37.0	▲48.0	▲22.2	▲50.0	▲46.4	▲60.9	▲42.8	▲11.5	▲11.5
飲食業	▲47.0	▲68.8	▲47.1	▲50.0	▲22.2	▲50.0	▲60.0	▲58.8	▲55.5	▲72.2	▲35.3	▲44.4
サービス業	▲40.5	▲34.1	▲55.0	▲51.2	▲29.5	▲45.5	▲50.0	▲47.5	▲35.0	▲15.4	▲27.5	▲31.6

3. 営業利益DI(前年同月比)

○全産業合計の営業利益DIは、前月(▲30.2)よりマイナス幅が0.3ポイント拡大し▲30.5となった。

○業種別に見ると、建設業、飲食業、サービス業でマイナス幅が拡大した。卸売業でプラスに転じた。また、製造業、小売業でマイナス幅が縮小した。

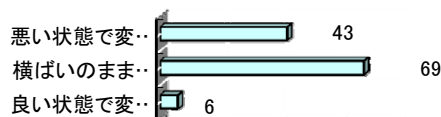
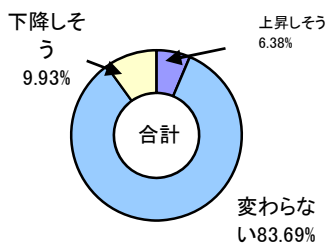
営業利益DI(全産業・前年同月比)の推移



【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	21年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年1月	2月	3月	4月
全体	▲54.8	▲50.0	▲47.1	▲54.6	▲42.9	▲48.9	▲51.4	▲47.5	▲48.2	▲38.6	▲30.2	▲30.5
建設業	▲58.8	▲44.4	▲31.5	▲53.3	▲53.3	▲64.7	▲33.3	▲44.4	▲68.4	▲37.5	▲52.6	▲72.2
製造業	▲58.3	▲70.8	▲60.0	▲66.7	▲40.9	▲54.5	▲40.9	▲50.0	▲50.0	▲43.5	▲21.8	▲16.7
卸売業	▲75.0	▲70.6	▲50.0	▲68.4	▲56.2	▲41.2	▲57.9	▲43.8	▲5.9	▲6.2	0.0	17.7
小売業	▲61.5	▲26.9	▲34.6	▲40.8	▲40.0	▲40.7	▲63.7	▲39.3	▲52.2	▲35.7	▲26.9	▲11.6
飲食業	▲47.0	▲68.8	▲52.9	▲43.8	▲33.4	▲50.0	▲66.7	▲58.8	▲55.5	▲72.2	▲35.3	▲61.1
サービス業	▲40.5	▲39.0	▲52.5	▲55.8	▲40.9	▲47.7	▲50.0	▲50.0	▲50.0	▲35.9	▲37.5	▲39.5

向こう3ヶ月の見通し



平成22年5月～平成22年7月の見通しDIは「上昇しそう」が前月調査に比べ1.36ポイント縮小して6.38%。「下降しそう」が2.18ポイント拡大して9.93%となった。業種別の見通しDIは建設業(▲5.5)、製造業(▲8.3)、卸売業(0)、小売業(0)、飲食業(5.6)、サービス業(▲7.9)であった。

➡上昇しそうでは、「4月以降受注」(製本)、「前年同月は景気の底であったと考えられるため」(機械工具)、「住宅用エコポイントの利用客が増える予想」(ガラスサッシ)、「今年に入って悪くなるばかりであるが5月以降の動きに期待」(布団)、「ゴールデンウィークや夏の観光」(そば)、「3月～4月受注分の納入案件がある」(情報関連サービス)

➡下降しそうでは、「公共・民間共に発注物件が減少している」(土木工事)、「民間物件の中止延期が相次ぎ需要の大幅な減少」(鉄工)、「大口の工事物件がない」(管工機

業種別景況

DI君の景況判断



1、建設業

売上高	受注量	受注単価	営業利益	今後3ヶ月の
極めて低調	極めて低調	極めて低調	極めて低調	やや低調

(各項目別前年同月比)

【項目別DIの推移】

	21年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年1月	2月	3月	4月
売上高	▲ 50.0	▲ 29.4	▲ 27.8	▲ 26.3	▲ 46.7	▲ 40.0	▲ 17.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 52.6	▲ 37.5	▲ 26.3	▲ 50.0
受注量	▲ 55.5	▲ 47.0	▲ 38.9	▲ 33.3	▲ 60.0	▲ 42.9	▲ 35.3	▲ 27.8	▲ 33.3	▲ 68.4	▲ 50.0	▲ 36.9	▲ 50.0
受注単価	▲ 77.8	▲ 29.4	▲ 55.6	▲ 44.4	▲ 46.7	▲ 42.9	▲ 41.2	▲ 44.4	▲ 38.9	▲ 42.1	▲ 43.8	▲ 57.9	▲ 38.9
営業利益	▲ 77.8	▲ 58.8	▲ 44.4	▲ 31.5	▲ 53.3	▲ 53.3	▲ 64.7	▲ 33.3	▲ 44.4	▲ 68.4	▲ 37.5	▲ 52.6	▲ 72.2
見通し	▲ 5.5	▲ 17.6	11.1	▲ 10.5	▲ 13.3	▲ 13.3	▲ 23.5	▲ 5.6	▲ 5.5	▲ 10.5	6.3	5.2	▲ 5.5

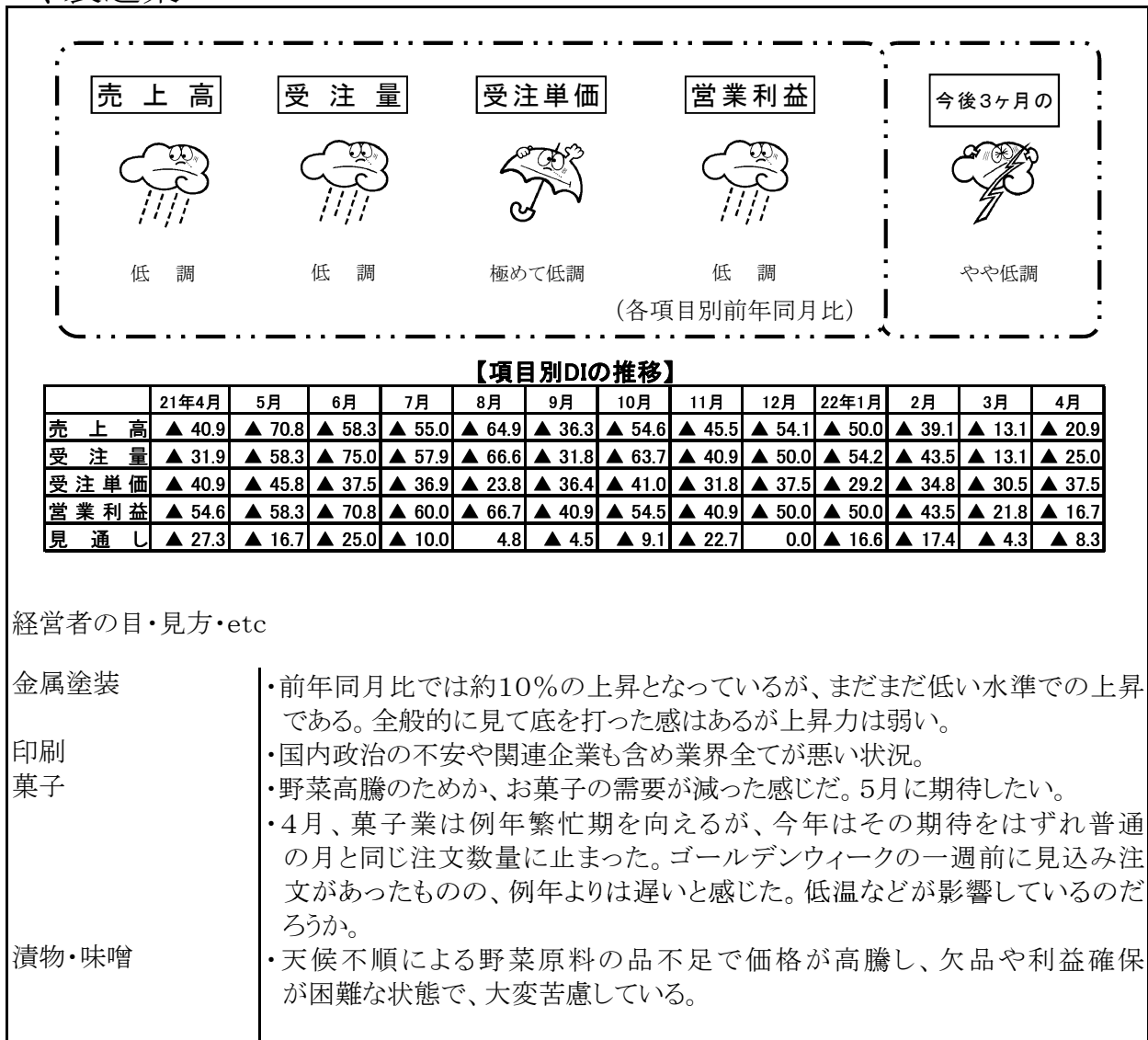
経営者の目・見方・etc

電気工事
管工事

土木工事
鉄工

- ・公共工事、民間工事共に物件が全くない。今後の不安である。
- ・新年度になり受注量は少し良くなってきている。しかし見積単価と受注単価の格差がある。
- ・4月後半は仕事がなくなった。
- ・これ以上悪い状態は考えられない程の低調ぶりである。景気の持ち直しという話は建設業では無縁のことである。自らの安値受注だけでなく、発注者側のモラルも感じられないような請負価格で物件が動いている。「顧客の信頼」とは他社より安価にすることなのだろうか？
- ・国交省の着工統計、2009年度鉄骨の需要量約390万トン(前年度比34%減)400万トン割れは42年ぶりの記録的な数値となった。依然として先行きの不透明感がある。

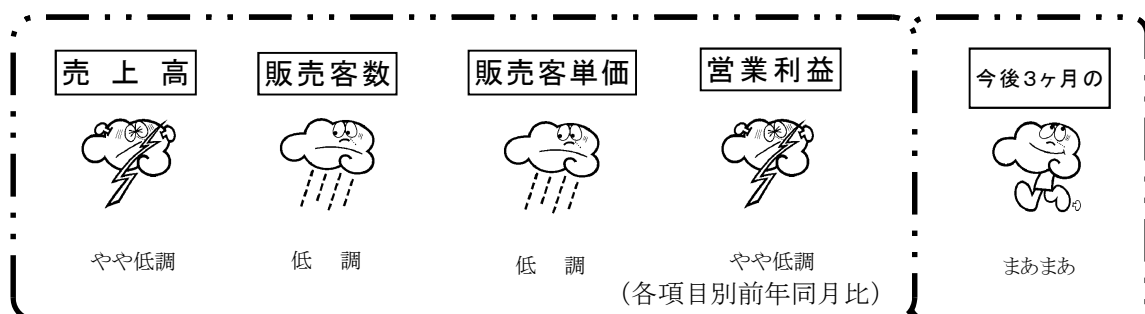
2、製造業



経営者の目・見方・etc

- 鋼材
 - ・鉄の相場は相変わらず読めない状況である。ここにきてスクラップ類が値下がりにしてきているが原因はわからない。
- 機械工具
 - ・景気の底打ち感はあるが、本格的な上向きになるのかは不透明である。
 - ・仕入先メーカーなどが生産を控えている影響で、物が少しずつ動き出したが、納期に間に合わないものが出てきた。
- 金属製品
 - ・自動車部品や電子材料の需要が回復し、銅や亜鉛、ニッケルなどの金属価格が上昇している。しかし、米証券取引委員会がゴールドマンサックスを詐欺罪で訴追したことで先物市場で商品が売られ、円高、ドル安もあって、先行きは不透明な情勢となっている。
- 木材・建材
 - ・ここにきてやっと前年並みの業績に戻ってきた。
 - ・見積り案件が出てきたが競争が激しい。受注を獲得するためには経費がかかるため、利益が大幅にダウンしてしまう。
- 青果
 - ・4月は天候不順と寒さの影響で野菜、特にキャベツ、ホウレン草、白菜、レタスキュウリは単価で前年比140%以上であった。野菜全体でも入荷80%、単価130%、売上104%で終了した。逆に果実は寒さから販売苦戦となり、入荷98%でありながら単価は前年の100%で終了した。市場全体売上では103%で終了野菜高値の反動で長野県産の野菜が始まる5月～6月に価格低迷にならないか心配である。

4、小売業



【項目別DIの推移】

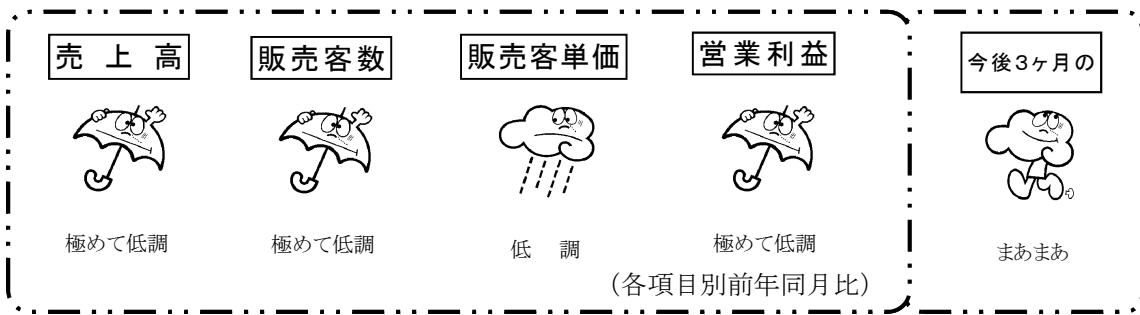
	21年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年1月	2月	3月	4月
売上高	▲ 42.3	▲ 57.7	▲ 19.3	▲ 34.6	▲ 37.0	▲ 48.0	▲ 22.2	▲ 50.0	▲ 46.4	▲ 60.9	▲ 42.8	▲ 11.5	▲ 11.5
販売客数	▲ 38.5	▲ 61.5	▲ 34.7	▲ 28.0	▲ 33.3	▲ 36.0	▲ 40.7	▲ 63.7	▲ 42.9	▲ 47.8	▲ 35.7	▲ 15.4	▲ 19.2
販売客単価	▲ 30.8	▲ 42.3	▲ 23.1	▲ 24.0	▲ 22.2	▲ 24.0	▲ 18.5	▲ 50.0	▲ 28.6	▲ 52.2	▲ 17.9	▲ 3.9	▲ 19.3
営業利益	▲ 42.3	▲ 61.5	▲ 26.9	▲ 34.6	▲ 40.8	▲ 40.0	▲ 40.7	▲ 63.7	▲ 39.3	▲ 52.2	▲ 35.7	▲ 26.9	▲ 11.6
見通し	▲ 15.4	▲ 26.9	▲ 3.9	▲ 7.7	▲ 14.8	▲ 16.0	▲ 25.9	▲ 13.7	▲ 21.4	▲ 13.0	3.5	0.0	0.0

経営者の目・見方・etc

- 住宅機器
 - ・4月は見積もりが多かった。全部決まることはないと思われるが、今後期待したい。
- ギフト商品
 - ・近隣の市町村を回っているが、シャッターを閉めている店舗が益々増えているように思える。当然、得意先であった店も含まれ、商店街の風情などが無くなってきている。残っている店舗も活気が感じられない。
- 印章
 - ・記録的な寒さのおかげで花見シーズンがとてもし長かった。松本城や外堀

パン	<p>の桜のライトアップには、昨年を上回る人出があったのではないだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リストラによる人件費削減効果で利益は上向いているが、売上は前年を下回っている。粗利益向上を目指してはいるが、原材料の値上げがあり、依然として厳しい状況である。 ・新学期商戦で入園・入学の需要があり、昨年より売上は上昇した。しかし、個人消費は相変わらず低調で厳しい引き続き書籍需要の掘り起こしに努める。 ・新年度の始まりでもあり、全般的に良い月であった。
書籍	
文具	

5、飲食業



【項目別DIの推移】

	21年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年1月	2月	3月	4月
売上高	▲ 43.8	▲ 47.0	▲ 68.8	▲ 47.1	▲ 50.0	▲ 22.2	▲ 50.0	▲ 60.0	▲ 58.8	▲ 55.5	▲ 72.2	▲ 35.3	▲ 44.4
販売客数	▲ 31.2	▲ 29.5	▲ 68.8	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 22.2	▲ 50.0	▲ 60.0	▲ 52.9	▲ 55.5	▲ 72.2	▲ 35.3	▲ 44.4
販売客単価	▲ 56.3	▲ 29.4	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 31.3	▲ 11.1	▲ 31.2	▲ 46.7	▲ 47.1	▲ 38.8	▲ 55.6	▲ 29.4	▲ 22.2
営業利益	▲ 43.8	▲ 47.0	▲ 68.8	▲ 52.9	▲ 43.8	▲ 33.4	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 58.8	▲ 55.5	▲ 72.2	▲ 35.3	▲ 61.1
見通し	▲ 6.2	▲ 5.9	0.0	0.0	▲ 12.5	▲ 22.2	▲ 18.7	▲ 33.3	▲ 29.4	▲ 22.2	11.1	5.8	5.6

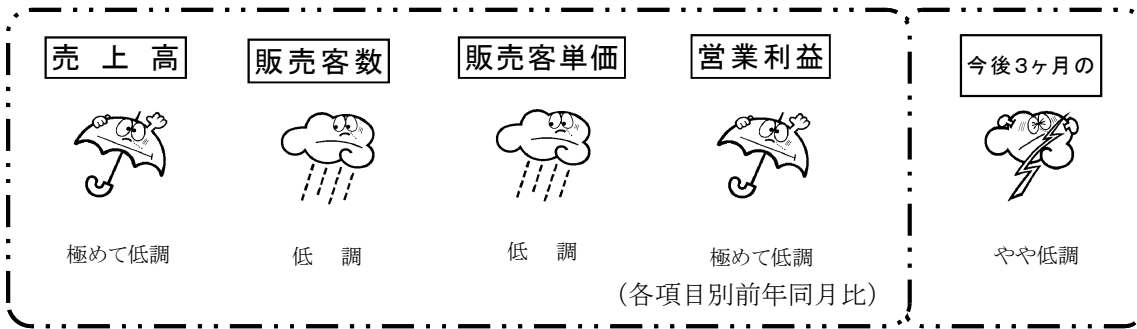
経営者の目・見方・etc

レストラン	<ul style="list-style-type: none"> ・数値的に10%くらい水準はすぐに落ちてしまう。頑張っている企業もあるので参考にして、可能性を追求したい。 ・今年は本当に天気が安定せず、暖かい日があれば寒い日があり、おまけに雪も降る悪天候に人の動きも静かだ。週末は平日より人が出ているが、あまり良くない月で終わってしまった。来月に期待したい。 ・5月連休に備えたためか、消費があまりよくなかった。予約等が入っている時は忙しいのだが、予約以外の一般の人出が少ない。 ・土日集中の傾向がますます強く平日の客数は減少している。前年度は善光寺ご開帳により集客に繋がっていたと感じる。 ・季節が暖かくなった分だけ人の動きを感じる。一般客に加え、海外客の受け入れや家族行事等を取り入れていかなければならないと考える。 ・例年の3月～4月の流れと比べると、4月の売り上げは3月の実績から予想した売上を下回った。外的にも内的にも様々な理由が想定されるが、こんな時ほど基本に忠実に客1人1人に感謝の気持ちを持って接したい。 ・桜が咲いているのに雪が降ったりと、4月でも寒い日が続いた。この天候不順が営業にかなり響いた。例年4月は入学式や歓送迎会またはお花見など盛り沢山の行事が重なる良い月であったが、例年に比べると良い日と悪い日の格差が非常にある月であった。 ・例年だと桜が咲いた週は大勢の人で賑わうが、今年は例年にない寒さのため
カレー	
中華料理	
郷土料理	
料理	
寿司	
そば	

仕出し料理

めか、賑わったのは開花後の土曜日1日だけであった。陽気も政治と一緒に不安定であり、先行きは不安である。
 ・天候不順により青果全体が高値に推移し、鮮魚も漁獲量の減少により仕入単価が高騰したが、売上には転嫁できず大変苦慮した。景気の落ち込みで得意先の廃業や倒産等が目立ち、また、競合相手との顧客獲得に伴う値引き競争にも晒されている。

6、サービス業



【項目別DIの推移】

	21年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	22年1月	2月	3月	4月
売上高	▲47.7	▲40.5	▲34.1	▲55.0	▲54.2	▲29.5	▲45.5	▲50.0	▲47.5	▲35.0	▲15.4	▲27.5	▲31.6
販売客数	▲38.6	▲47.7	▲41.4	▲45.0	▲44.2	▲27.3	▲50.0	▲52.2	▲42.5	▲35.0	▲25.7	▲7.5	▲26.3
販売客単価	▲43.2	▲31.0	▲24.4	▲35.0	▲30.2	▲27.2	▲29.6	▲34.1	▲32.5	▲32.5	▲20.5	▲17.5	▲23.6
営業利益	▲47.8	▲40.5	▲39.0	▲52.5	▲55.8	▲40.9	▲47.7	▲50.0	▲50.0	▲50.0	▲35.9	▲37.5	▲39.5
見通し	▲9.1	▲9.5	▲4.9	▲5.0	▲2.4	▲13.6	▲6.8	▲15.9	▲7.5	▲5.0	▲2.5	0.0	▲7.9

経営者の目・見方・etc

機械設計

・製造業の一部では増産に入った企業もあり、設備などの自動化も進んでいる。部品を調達しようとしてもメーカーによっては一ヶ月以上かかることもある。

自動車整備

・年度末が過ぎ、仕事に空白ができた状態である。ゴールデンウィーク過ぎまでは例年仕事量が少なくなる傾向にあるが、今年は例年より早くこの状態に入りつつある気がする。先行き不安である。

ホテル

温泉旅館

・未だ景気の底は見え見え見通しが立たない。
 ・4月末にはヨーロッパ方面からの客の予約が多かったが、アイスランドの火山の影響で空港が閉鎖になりキャンセルが相次いだ。
 ・最悪期でさらに悪化している。5月の連休に期待するのみ。

タクシー

・客単価は前年比を上回ったものの、売上は前年割れが続いている。また、ガソリン価格は4月中に2度ほど値上がりがあり、益々経営を圧迫している。
 ・売上高は前年比マイナスの状況が続く中で燃料価格が再び上昇に転じてきており、業界を取り巻く環境は依然として厳しい。

旅行斡旋

・安近短傾向が続き各社の競争が激化し収益率が低下、更に募集企画商品の集客率も悪くなってきている。6月からのFDA就航に期待したい。

情報関連サービス

・介護・福祉関係は安定している業界であると思われる。増員や残業などが出てきているIT関係の工場は、仕事が戻って来つつあるようだ。しかし一方では競合が激化して価格競争となり利益ダウンの傾向となっている。

獣医

・4月は宮崎県で偶蹄類に口蹄疫が発病して数万頭の牛や豚が処分され

倉庫 税理士	<p>た。県内への影響はあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月～4月は天候が悪く、犬のフィテリア予防注射の接種が減少気味であった。 ・電子デバイスの動きが活発になった。4月はガソリン単価が急上昇した。 ・不況業種と言われている建設業(中でも建築)について客先である法人では、相変わらず着実に業績を伸ばしている。知名度のある中小企業ではないのだが、堅実経営に原点を置いている企業である。社内における役員間の連携はもとより、従業員や下請業者が長年に渡り定着しており、経営の基本であるお金の動き等、しっかりとコントロールされている。金融機関からも全面的信頼を受けている。
マッサージ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年4月から客足が伸びてくるので、より一層サービスに力を入れて客の満足度を高めたい。
美容	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールデンウィーク前ということもあり、月の終わりは客が多く来店した。来月は一段落すると思われるので、従業員教育などに力をいれていき、時間を有効活用したい。